

KURASHIKI CENTRAL HOSPITAL Knews

Take
Free



写真/オープンホスピタルの様子

No. 37
2018.10

Close-up

平成30年7月豪雨

「平成30年7月豪雨」

7月7～9日

7月7日

未明より低体温や土砂災害被害の患者さんの

搬送が相次ぐようになりました。災害対策本部（本部長：山形専院長）を設置し、救命救急センターでは通常よりスタッフ数を倍にして診療にあたりました。次々とする消防隊からの救急搬送の連絡や当院各部署の対応状況、参集した職員の配役・配置などをホワイトボードに記入し、情報を整理しながら対応しました。刻々と変化する状況に対して、全体で方針を共有できるよ



うに、定期的に打ち合わせを開きました。受診後に家が浸水するなど帰宅困難となった患者さんは、当院のセントラルパーラーと入退院支援センターの受付を一時的な待機場所として開放しました。

7月8日

真備地区から救助された患者さんが多数搬送されました。「まび記念病院」(真備町川辺)は1階部分が水没するなど病院機能が停止し、この間のまび記念病院からの搬送患者は合計26名(8日昼までに6名、同日17時以降に20名)でした。そのうち8日の夜間に6名、翌9日に9名を倉敷市内の他の医療機関で受け入れていただきました。



西日本を中心とした記録的な大雨「平成30年7月豪雨」では、岡山県で初めてとなる大雨特別警報が発令され、各地で甚大な被害が生じました。お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りしますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

今号では当院の対応状況をご報告いたします。

7月9日

トイレを気にされて水分を控えたことによる熱中症、食事が変わり塩分過多による心不全発症、薬を十分に服用できないことによる症状悪化など、災害により既往がある患者さんが体調を崩されて来院されました。また、痙攣や意識がないなど救急措置が必要な患者さんの治療も行いました。



救命救急センター受診者数 (いずれの日も0時から24時)

	7/6(金)	7/7(土)	7/8(日)	7/9(月)
ウォークイン	112	183	223	151
救急搬送	45	64	57	46
合計	157	247	280	197
入院患者数	33	39	42	40

※7月全体の救急搬送受け入れ件数は例年より約300件多い1,120件でした。

▶ BCPとは：

Business Continuity Planの略称で、災害など不測の事態により被害を受けても事業を継続していく、もしくは中断しても早期復旧を図るために、事前に対応策を準備しておく計画のことです。当院は**災害拠点病院**として、広域大規模災害などが発生した際に、切れ目なく災害医療活動を継続して救命活動や地域社会の早期復興に貢献することを目的に、BCPを策定しています。

7月11日以降

7月11日からは倉敷市保健所の災害対策本部や、真備地区の避難所などに当院スタッフを派遣して活動しました。医療救護班は医師・看護師・**業務調整員**の3人で構成し、7月11～13日は1班、14～17日は2班を派遣して診療活動をしました。DVT(深部静脈血栓症、エコノミークラス症候群)予防活動では、倉敷市の災害対策本部が作成したアンケート用紙に沿って評価し、必要があれば弾性ストッキングの提供や、水分摂取や下肢の運



災害対策室での打ち合わせ

動を促すといった啓蒙を行いました。感染症の疑いが発生した際には、臨床検査・感染症科の医師が現地調査し、対策本部で対策案を協議しました。

▶ 業務調整員とは：

医療救護班の活動に関わる通信や移動手段などの確保や、活動に伴う連絡や情報収集などを行い、チームが円滑に活動できるように調整を行います。業務調整員としてチームに入る職種は、放射線技師・理学療法士・臨床検査技師・臨床工学技士・歯科衛生士などです。

当院医療救護班の主な活動場所

- ①岡田小学校 ②菌小学校 ③二万小学校
- ④吉備路クリーンセンター ⑤船穂小学校
- ⑥日妻公民館 ⑦コスモタウン広江
- ⑧まび記念病院 ⑨中国職業能力開発大学



医療救護班派遣先

7月13日には災害対策室を立ち上げ、災害関連情報の集約・対応・記録や定期ミーティング、派遣医療救護班への指示等を一元化しました。岡山県栄養士会からの派遣依頼により、24日から計5日間、当院栄養治療部の管理栄養士が真備地区や総社市で栄養指導などを行いました。

救命救急センターには、ボランティアの活動初日に体調を崩され、熱中症の疑いのある方が搬送されました。また、片付けの最中にけがをされ、破傷風予防のための注射（トキソイド）接種が多くなりました。

▶ 災害拠点病院とは：

地震や台風等の災害時に24時間体制で被災地からの重症傷病患者さんらを受け入れる医療機関。1995年の阪神・淡路大震災で浮き彫りとなった災害医療体制の不備を整備するため、国は各都道府県知事に対し、災害時に拠点となる災害拠点病院を選定・設置するように通達しました。

DMATチームや病院敷地内など近接地にヘリポートの確保、建物が耐震耐火構造で、広域搬送への対応機能などを有することなどが条件となっています。当院は1997年に岡山県災害拠点病院に指定されました。非常事態に備えて定期的に訓練を行っています。災害拠点病院は8月末時点で岡山県内に9施設、全国で約700施設が指定されています。



当院では大規模災害を想定した災害対応訓練を定期的実施して、緊急時に備えています。
(写真は2017年度の訓練から)

ご報告

当院では被災地支援のため、義援金の募金活動を行いました。また、当院の職員や院友会（職員福利厚生組織）からも義援金が寄せられ、総計13,244,638円の温かい義援金が集まりました。

集まりました義援金は、8月24日に「平成30年7月豪雨岡山県災害義援金」募金運動推進本部（本部長：岡山県知事）にお届けしました。ご協力いただきました多くの皆様に、厚く御礼申し上げます。

被災地の一日も早い復旧と復興を心よりお祈り申し上げます。

手外科のはなし

整形外科
部長 松本 泰一



■ 手外科ではどのような診療を行うのですか？

手外科は、肘から手指までの上肢に何らかの変形や機能障害などの症状のある、赤ちゃんからお年寄りまで幅広い患者さんが対象となります。具体的には、指の切断や靭帯損傷、腱断裂や腱鞘炎、リウマチによる手の障害など（表1）が対象で、手外科ではこれらの疾患の診断・治療にあたっています。

表1 手外科の主な疾患

外傷（急性期）	骨折、腱損傷、血管損傷、神経損傷、切断指肢、軟部組織欠損など	指、手関節（手首のことです）や肘の骨折、捻挫など“けが”に起因した上肢の症状。疼痛やしびれ、指や腕が動きにくいといった運動障害です。
外傷後遺症（慢性期）	手指欠損、骨折変形治療／偽関節	けがの後、ある程度良くなったが、疼痛やしびれが続く、手指・手関節・肘関節が動きにくい、動かすと痛みが出るなどの症状です。指欠損、舟状骨骨折偽関節など。
慢性疾患	リウマチ関連疾患、手／肘／指変形性関節症、TFCC損傷、キーンベック病、手根管症候群など	指関節痛／拘縮、手関節痛、肘関節痛あるいはリウマチ疾患による手の障害（伸筋腱断裂、肘／手関節／手指変形など）。
スポーツ障害	野球肘、靭帯損傷、TFCC損傷など	保存的治療、手術的治療の両方を患者さんのコンディションとあわせ、よく検討して方針を決定します。
上肢先天異常	母指多指症、ぶらぶら母指、内反手、先天性橈尺骨癒合症など	生まれつき手指や腕といった上肢に先天的な障害がある赤ちゃんや子供さんの治療などを行います。機能的（つかむ、握るなどの機能）にも、外観や整容的にも配慮して治療にあたります。

ほかにも、手のひらから指にかけてしこりができて徐々に指が伸ばしにくくなるデュピュイトラン拘縮や、感染性偽関節や慢性骨髄炎の治療として、イリザロフ創外固定器やマイクロサージャリー技術を用いた血管柄付組織移植（皮膚、筋肉、骨）を用いて治療しています。手外科の代表的な疾患はたくさんありますので、日本手外科学会ホームページ（<http://www.jssh.or.jp/>）“一般の皆様”“代表的な手外科疾患”を参照していただければと思います（<http://www.jssh.or.jp/ippan/sikkan/index.html>）。

■ 診断や治療の方法は？

レントゲンやCT、MRIなどのさまざまな検査機器を駆使し、手外科専門医が症状のあるところを触診し、問題となっている原因が関節にあるのか、筋肉や腱にあるのか、筋肉を動かす神経にあるのかを診断します。1.5テスラ四肢専用MRIは、通常のレントゲン検査では見つけにくい骨折などの疾患の診断に効果を発揮します。

治療ですが、手の構造は非常に微細で、またその機能は繊細ですので、手術には手術用顕微鏡や拡大鏡を用いた大変細かい手術技術（マイクロサージャリーといいます）を用います。切断された指肢を再接着したり、無くなってしまった体の部分を他の体の場所から移植して再建したりします。つかむ、握るなどの機能にも、外観や整容的にも心配りをしながら治療しています。患者さんが困っておられる症状をお聞きして、たとえ元通りにはなくても、どうすれば使いやすい手になるのか、じっくりと話し合って治療方針を決めるようにしています。

■ リハビリも大切だと聞いたことがあります

手術とリハビリは手外科の両輪で、どちらがうまくいなくても治療成績は満足いくものとなりません。どちらも大変重要です。当院では整形外科専従の作業療法士が6人在籍しており、手外科の術後リハビリを担当しています。毎週金曜日はハンドセラピー実施時に手外科専門医とハンドセラピストが話し合いながら治療しています。リハビリ期間は最低でも約3か月で、手指の再建など大きな手術後は1～2年かかることもあります。

入院期間ですが、小さな手術は日帰り手術や一泊入院で手術しますが、長期のリハビリや数回にわたる手術を要する場合は長期入院が必要です。

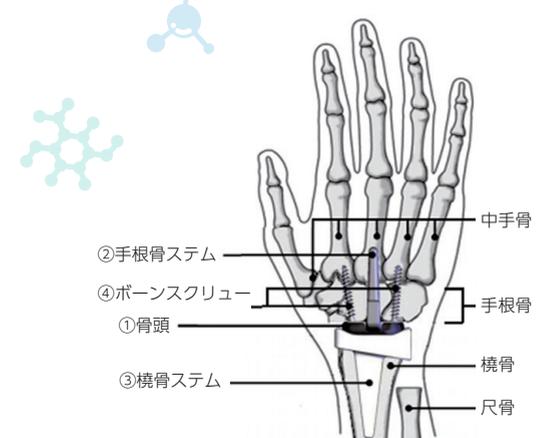
■ 関節リウマチの分野で国産初の手首の人工関節が導入されたと聞きました

関節リウマチは関節の滑膜の炎症をきっかけとして、軟骨や骨、靭帯、腱などを破壊・侵襲して手や肘などの関節や手指の変形が進む病気です。手関節のリウマチ関節は特有の変形があり、食事や整容、トイレ動作が障害されます。そのため手関節滑膜切

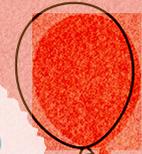


DARTS人工手関節
（帯人ナカシマ
メディカル）

除や手関節固定術などの治療・手術が行われていますが、手関節の可動性がなくなるなど、障害が残ります。痛みがなく、安定していて、かつ動かすことができるような手関節を再建する方法は、人工手関節置換術です。これまで日本では使用が認められていませんでしたが、このたび、日本で「DARTS人工手関節」が開発されました。厚生省の指導のもとで人工手関節が限定的ではありますが使用可能となり、当院も実施施設に登録されました。適応基準があり、原則として保存的治療に抵抗する関節リウマチまたはその類縁疾患手関節であることや、50歳以上であることなどが定められています。手関節痛でお困りの方がいらっしゃいましたら、整形外科にご相談ください。



埋植されたイメージ
（医薬・生活衛生局 医療機器審査管理課 審議結果報告書より）



倉敷中央病院 オープンホスピタル 2018 を開催しました!



地域に開かれた病院として幅広い世代に当院を知っていただくことや、地域の子どもやそのご家族に病院職員の仕事を紹介することなどを目的に、2017年より開催しています。今回は夏休み最後の週末となる8月25日(土)に開催しました。当院各部署の有志約300人が、さまざまな体験型のイベントを企画し、29のブースを出店しました。家族連れら約1,400人が来場される大盛況となり、病院には多くのお子さんやご家族、そして職員的笑顔があふれていました。参加して下さった皆さまに、改めて御礼申し上げます。



白衣を着てお医者さんに変身。聴診器からはどんな音が聞こえるかな



ポータブルレントゲンを使用した模擬撮影にチャレンジ



作業療法士が見守る中、リハビリで使う自助具を体験



当院に関する〇×クイズに挑戦! 正解はどっちかな?



医師の説明を聞きながら新生児蘇生を体験



コックさんに着替え、食事を運ぶカートの前で記念撮影



病院内ではさまざまな物品が流通しています。カートを押しながら目指せ目的地!



お菓子を薬に見立てた調剤体験では、開始前から整理券を求めると行列ができました



2019年6月に「予防医療プラザ」に生まれ変わる総合保健管理センターでは顕微鏡で細胞を観察



医療ロボット
[da Vinci] が
外来の待合に登場!



小児がんのアメリカの少女
が発案したレモネードスタ
ンドのチャリティー活動を
実施しました



大規模災害時の
当院の役割を紹介



ボランティアと
一緒にウサギの
マスコットづくり

子どもの入院に関
するクイズ挑戦後
に、院内学級のお
友達が作った作品
をプレゼント



倉敷中央看護専門
学校の学生と一緒に、
赤ちゃんのお風
呂入れを体験



家族や友人が倒れた
時に何ができるのか、
蘇生用の人形を用い
て対処法を体験



当日は30℃を超え
る真夏日で、多くの
来場者がばくだん
キャンディやラムネ
を買い求められて
いました

わが街健康プロジェクト。

— 「排尿・排泄ケア」をテーマに



わがプロの活動テーマ

- ① 医療機関と上手に付き合う
- ② 病気の予防と健康維持
- ③ 倉敷をもっと好きになる



倉敷市内を中心とした医療機関24施設で共催している「わが街健康プロジェクト。」(わがプロ)の第20回講演会が8月28日、倉敷市民会館で開かれ、182人の市民が参加されました。「排尿・排泄ケア」をテーマに、倉敷成人病センターの高本 均理事長と、水島協同病院の平良亮介皮膚・排泄ケア認定看護師が講演しました。

高本先生は「尿もれは、『生活の質を落とす』『気持ち的に・精神的にも内向き』になることがあり、『旅行に行けない』など、いろいろな活動面でも支障をきたすような病気」と説明され、「ひとりで悩まずにかかりつけの先生に相談し、必要時は専門医を受診しましょう」と呼びかけられました。

平良先生は「排便は形や色、におい、回数などが健康の重要な指標となります」と述べられ、「異常

があれば医療機関を受診し、そしてぜひかかりつけ医を持ってください」と締めくくられました。

第21回講演会は11月27日(火)の開催です。骨密度測定や各種相談コーナーを設けた「健やかブース」も講演会当日の13時から50分間開催しています。当院や共催病院、公民館などに配置しているチラシが申し込み用紙となっております。問い合わせはわがプロ事務局(倉敷中央病院地域医療連携室:TEL086-422-5218)までご連絡ください。

わがプロカウンター

参加延べ人数	3,958人
ブロンズサポーター (講演会3回参加)	309人
ゴールドサポーター (講演会6回+ミーティング2回参加)	105人
プラチナサポーター (講演会6回+ミーティング4回参加、わが友ポイント30ポイント獲得)	2人

わが街健康プロジェクトの活動については、公式ホームページで確認することができます。講演会の模様だけではなく、過去の優秀作品ポスターも掲載しています。こちらのQRコードを読み込めば、直接ページへつながりますので、ぜひご覧になってください。



院内散歩

当院には温室や多数の絵画など、患者さんに心安らぐひとときを過ごしていただけるようにと、さまざまな施設・装飾が施されています。このコーナーでは数々の憩いのスポットをご紹介します。



創立者の大原孫三郎は、病院の設計理念のひとつに「病院くさくない明るい病院」掲げました。

倉敷中央病院には、いくつかのアメニティスペースが設けられています。噴水の水音が聞こえ、明るい日

差しが降りそそぐ温室。風を感じられるセントラルパーラー、そこで開催されるコンサート。心を和ませてくれるくつろぎの空間に、多くの方が自然と集まってきます。患者さんへの優しい環境づくりは、当院にとって、大切な医療の一環です。



ゲーテの詩碑

当院の内科外来と臨床研究推進部に囲まれた中庭に建立されている詩碑をご存知でしょうか。高さ約180cm、幅約150cm、奥行約80cmの碑には、陶芸家の船木研児さんが手作業で描いて焼き上げた計120枚のタイルで覆われています。タイルには当院2代目理事長・大原總一郎さんが「庭の千草」の譜で子どもたちに唄わせたゲーテの「見出しぬ」の原詩と、動物の絵などが總一郎さんのスケッチを基に描かれています。

「Nun zweigt es immer Und blüht so fort」
森で見つけた可憐な花を摘もうとした彼に、その花が「折られて枯れる運命なのですね」と嘆いたので、根とともに家に持ち帰って植えたところ、元気に葉が繁り、花が咲き続けた、ということを知ったものです。可憐な野の花に寄せるゲーテの優しさがうかがわれます。その優しさ、相手を思いやる心こそ医療の原点である「人間愛」と考え、常にその心を忘れないようにと、詩碑を作りました。



今月のレシピ

普通食 治療食

関西仕込みの すき焼き風煮

塩分ひかえめ

栄養価(1人分)

エネルギー: 172kcal
たんぱく質: 14.6g
脂質: 8g
塩分: 1.5g



材料(1人分)

牛うす切り肉 60g
白菜 80g
ささがきごぼう 15g
人参 10g
ねぎ 10g
糸こんにゃく 15g

A

濃口醤油 9.5cc
砂糖 2g
酒 1cc
サラダ油 2cc

作り方

- 野菜を切る (白菜→長さ3cm、人参→短冊、ねぎ→長さ3cm)。
- 牛肉と糸こんにゃくをさっと湯通しする。
- 鍋に油をしき、糸こんにゃくを炒ってから牛肉を加えて炒め、牛肉の色が変われば人参、ごぼう、白菜、ねぎの順に野菜を入れ、Aを加えて中火で煮る。

調理師からのワンポイント

- ★牛肉は湯通しすることで臭みを抜き、うまみを閉じ込めます。
- ★煮ている間にアクが出れば、きちんと取りましょう。



まいど！(こんにちは)。今回は当院で糖尿病の患者さんや減塩が必要な患者さんに提供している関西仕込みのすき焼き風煮のご紹介です。

家庭で作るすき焼きには、およそ4gの塩分が含まれており、砂糖ばかりでなく塩分も摂りすぎになってしまう。1日の塩分摂取量の目標は、男性が8g・女性が7gなので、その多さが分かります。そこで、すき焼きをすき焼き風の煮物に代えると、塩分は1.5gまで減らせます。また、野菜も多く摂取することができ、身体に優しい料理です。秋が深まる頃には、ねぎを春菊に代えてもおいしくいただけます。15分もあれば完成するので、ぜひ、ご家庭で作ってみてください。ほな、また！(それでは、また次回お会いしましょう)



QQ車は、皆さまに倉敷中央病院のできごとを運ぶ(お伝えする)コーナーです。

放射線治療科が「ノバルス認定」を取得しました

世界水準の高精度放射線治療を行う施設として、ドイツの認定機関「ノバルスサーティファイド」から県内の医療機関として初めて認定を受けました。同機関はドイツのブレインラボ社が設立した認定機関で、アメリカやカナダなど3か国の放射線腫瘍医や脳外科医らで構成される「ノバルスエキスパートグループ」により、「定位放射線治療」について、世界水準での治療を実践している施設を評価しています。

7月20日にブレインラボ社ドイツ本社のトーマス・クラフト副社長らが来院され、贈呈式が開かれました。当院で実施している定位放射線治療が世界水準に達しているとの評価を受けて認定を得ることができ、大変光栄に思っています。



倉敷青陵高校図書委員の有志が当院入院患者図書室を飾りつけしました

7月下旬から約1か月、当院の入院患者図書室の一角に、「本のくすり」と記されたくすり袋が本棚に並びました。「ちょっとひといき本のくすり～安らげる時間を～」をテーマに、くすり袋をイメージした袋に生徒が選んだ図書を入れ、中身の見えない状態で配架されました。袋の表には図書の内容が分かるようなヒントを「効能」(「笑いたいとき」「旅した気分になりたいとき」「癒されたいとき」など)として明記し、どんな図書が入っているのか、ワクワクする気持ちを楽しんでいただきました。



勤労感謝の日は外来を通常稼働いたします

当院は2018年度の勤労感謝の日を病院の稼働日としました。11月23日(金)の外来は平常通りの診察といたします。

Close-up

平成30年7月豪雨

- 01 ヘルシーリビング
手外科のはなし
- 02 トピックスⅠ
第2回オープンホスピタル
- 03 トピックスⅡ
わが街健康プロジェクト。
第20回講演会
- 04 院内散歩
ゲーテの詩碑
- 05 くらちゅうキッチン
関西仕込みの すき焼き風煮
- 06 QQ車
ノバリス認定
青陵高校展示
11/23通常診療

倉敷中央病院の役割は？

当院は地域の診療所や病院から紹介のあった緊急・重症な患者さん、救急搬送された患者さんを中心に、入院や手術など高度で専門的な医療を24時間体制で提供する急性期病院です。症状が安定されましたら、お近くの医院をご紹介させていただきます。紹介元の先生よりご依頼があれば、いつでもフォローいたします。



かかりつけ医を持ちましょう

かかりつけ医を持つことは患者さんにとって大きな利点があります。かかりつけ医は当院の医師と違う視点で病気を管理することができ、十分な時間を取っての相談も可能です。入院や手術など高度で専門的な医療が必要と判断された場合、紹介状を作成されますので当院を受診してください。当院での検査や治療が終了しましたら、当院主治医からかかりつけ医に治療結果を報告しますので、かかりつけ医で継続した治療を受けていただけます。



公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構

倉敷中央病院

〒710-8602 岡山県倉敷市美和1丁目1番1号
 TEL.(086)422-0210代 FAX.(086)421-3424
<https://www.kchnet.or.jp>